

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs とは—

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

17の目標と169のターゲット(目標ごとの解決課題)から構成され、貧困や飢餓、環境問題、経済格差など、地球全体が抱える課題の解決を目指しています。

「5つのP」から考えるSDGs

SDGsの17の目標を5つのキーワードで考えるとよりイメージがしやすくなります。

「5つのP」とは、「人間」「地球」「豊かさ(繁栄)」「平和」「パートナーシップ」の5つの性質の頭文字をとったものです。

People 人間

地球上のすべての人が健康で安全な生活を送り、自らが有する能力を発揮できるようにする。

Prosperity 豊かさ(繁栄)

技術の発展やインフラ・都市といった生活基盤の構築などを通じて、経済成長の恩恵を受け豊かで充実した生活を送れる世界を実現する。

Planet 地球

資源の枯渇や気候危機といった課題を回避するための仕組みを作り出し、地球上に人類が安心して暮らし続けられる状態を実現する。

Peace 平和

だれ一人取り残すことなく、恐怖と暴力に脅かされることのない平和で公正な社会を実現する。

Partnership パートナーシップ

すべての国と人々が持続可能な社会を実現するための取り組みに参画することを促し、強みを共有し、弱みを補完しあえる社会の実現を目指す。

持続可能な開発のための教育 (ESD)

(Education for Sustainable Development)

ESDは、持続可能な社会の創り手を育むための教育です。

今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大など人類の開発活動による様々な問題があります。ESDでは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、一人ひとりが身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動などの変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。

学習指導要領※にも明記されています

平成29年3月に幼稚園教育要領及び小学校・中学校の学習指導要領が、平成30年3月には高等学校の学習指導要領が告示されました。この学習指導要領前文には、「持続可能な社会の創り手の育成」が下のように掲げられています。

これからの学校には、(中略)一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

小学校学習指導要領(平成29年3月告示)

※「学習指導要領」とは、全国どここの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程(カリキュラム)の基準です。

SDGsと学校教育

SDGsは学校教育とどのように関わっているのでしょうか？

参考・引用

我々の世界を変革する:持続可能な開発のための 2030 アジェンダ(2015年9月第70回国連総会で採択)
持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引(令和3年5月改訂)文部科学省国際統括官付日本ユネスコ国内委員会
小学校学習指導要領(平成29年3月告示)



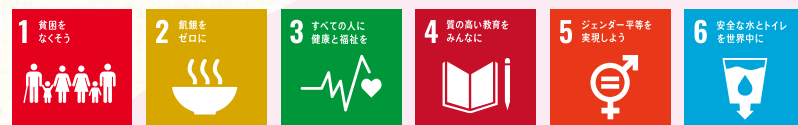
People 人間

貧困を解決し、健康で
お互いを大切にしよう

学習指導要領に示された持続可能な社会の創り手を育成するために、こども園では保育や遊びの中で、小・中学校では授業、総合的な学習の時間、特別活動などで、SDGsの実現につながる学習や活動を行っています。これらの活動について単純に分けることは難しいですが、「5つのP」の観点で整理しました。

Prosperity 豊かさ(繁栄)

経済的に豊かで安心して
暮らせる世界にしよう



おいしい給食：仲南小



手打ちうどん作り：琴南こ



人権学習：長炭小



タブレットを使って交流：高篠小



職場体験学習：満濃中



瓦葺き体験：四条小



認知症サポーター養成講座：琴南小



歯科健診：長炭こ



フッ素洗口：仲南こ



ジェンダーレス制服：満濃中



出前授業(香川用水)：琴南小



車いすバスケット体験：満濃南小



なかよし集会：高篠小



交通安全ドラック授業：琴南小

Planet 地球

自然と共存して、
地球の環境を守ろう



廃材で工作遊び：満濃南小



アルミ缶回収：四条小



緑のカーテン：高篠こ



社会科授業(水産業)：長炭小



春を探して：四条こ



ひまわり学習：仲南小



葉っぱ大好き：長炭こ



ウサギ飼育：仲南こ

SDGsすべてのゴールをめざして

Peace 平和

争いのない平和で
公正な世界を実現しよう



平和学習(広島にて)：満濃南小



平和学習(沖縄にて)：満濃中



道徳授業(公正とは)：四条小

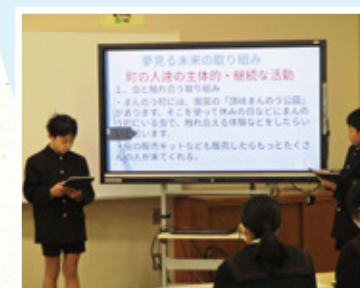


Partnership パートナースhip

世界の国々や人々が
いろいろな形で
協力しよう



アントレプレナーシップ教育：長炭小



町の未来を提言(国語)：満濃南小

※アントレプレナーシップ教育

自ら社会課題を見つけ、他者との協働により解決策を探究する知識・能力・態度を身につける教育



ボランティア(公民館祭り)：満濃中

本校の校訓は「向学」「誠実」「信愛」、学校教育目標は「自ら考え、正しく判断し、たくましく行動できる生徒の育成」です。自ら考える力の育成に焦点を当て、本校が日々取り組んでいる教育活動を紹介いたします。

校則を考える

生徒の声から生まれた新制服

本校では、多様な価値観を尊重し、誰もが自分らしく過ごせる学校を目指して、制服の見直しに取り組んできました。

全校生徒による話し合いや意見交換を重ねながら、新たに、性の多様性に配慮した制服が完成し、今年度から着用が始まりました。シャツの色やスラックス・スカートのスタイルなどを選べることで、より多様性と自由度が高まり、生徒一人ひとりが自分らしくいられる制服へと生まれ変わりました。

入学式当日、新しい制服に身を包んだ新入生が緊張と期待を胸に登校し、校内に新たな風を吹き込んでくれました。これから始まる学校生活の中で、新しい制服が生徒たちの毎日をより前向きなものにしていくことを願っています。



新制服に身を包んで

学びを考える

一人ひとりの可能性を最大限に引き出す授業改善

理科：実験の結果を報告



本校では、今年度「個別最適な学び」と「協働的な学び」※の両立をめざし、授業改善に取り組んでいます。生徒一人ひとりが自分のペースでドリルや調べ学習を進めることができるように、時間の確保をしたり、わからないことを質問できる場を設

自ら考える力の育成

満濃中学校



実験を撮影

けたりすることで、理解の深まりを図ります。一方で、ペアやグループでの話し合いや意見交換の場を大切に、新たな視点を得たり自分の考えを広げたりする機会を作っています。生徒全員が学びがいを実感できる学校をめざして、教職員一同、日々の教育活動に丁寧に取り組んでいきます。

※個別最適な学び：一人ひとりの特性や学習進度、興味・関心に合わせた学習
※協働的な学び：生徒たちが互いに協力し合いながら、一緒に問題を解決したり、何かを創造したりする学習

自分ができることを考える

人の思いにふれ、心を動かす弁論大会

校内弁論大会を開催しました。生徒たちは、生きていく中で誰もが経験する失敗やつまずきに対して、どのように立ち直り再び前を向くことができるのかについて真剣に考えました。そして、自分だったらどうするか、人として何が大切なのかを、思いを込めて作文に書きました。

各学年から選ばれた代表者の発表には、身近な友人との関わりから気づいたこと、あいさつの大切さ、家族や地域とのつながり、人として大切にしたい心

地域の未来を考える 中学生と大学生が動画で町の魅力発信！

昨年8月から12月にかけて、満濃中学校生徒と香川大学学生、町地域振興課職員が協力し、まんの町の魅力を動画で発信するプロジェクトが行われました。このプロジェクトでは、参加者が一緒に町内を歩きながら、普段は見過ごしてしまいがちな風景や人々の温かさ、地域資源の豊かさに改めて目を向け、どうすれば、その魅力を広く伝えられるかを真剣に考えました。動画はまんの町ホームページにて、町内外に向けて公開されています。



出演した生徒



動画を撮影する様子

今年度も、日々の授業や地域との交流など、様々な活動を通して、生徒一人ひとりが自ら考え、自分の力で道を切り拓いていけるような教育活動を積み重ねていきます。

仲南こども園では、子どものやってみたいという思いが、周りの友だちや保育教諭とつながり、一緒に経験しながら楽しさを共有することを大切にしています。その中で、ワクワク・ドキドキと心が動くことから、次の遊びにつながっていくのではないかと考えて、日々活動しています。

ワクワクする広い園庭！

年度初めに、「仲南こども園のワクワクするところを語り合おう」というテーマで園内職員研修を行いました。職員がそれぞれに園内のワクワクする写真を撮って語り合いました。

4月の人事異動で仲南こども園に赴任した職員が撮る写真の中に毎年あるのが広い園庭の写真です。そして、「この広い園庭で子どもたちの遊びがどう展開していくか楽しみでワクワクします」と言っています。園庭にある築山に登って子どもたちの姿を見ると、広い園庭のあちこちでいろいろな遊びが展開しているのが見えます。思い思いの場所で友だち、異年齢児、保育教諭などと遊んでいる姿を見てみると、「楽しそう。次はどうなるのかな？」とワクワクします。子どもたちは、この広い園庭でたくさんの人・もの・ことと関わりながら様々な経験をしています。



ワクワクする広い園庭

仲南こども園に来る機会がありましたら、ぜひ築山の上から園庭を見てワクワク感を味わってみてください。

子どもも大人も ワクワクする園

仲南こども園



ミンジンぬけた！



虫取り網の柄も遊びに



田植え準備



田植えをしたよ

子どもたちの声を聴き、本物の体験をさせたいという保育教諭の思いで実現した田植えは、子どもたちだけでなく職員もワクワクする体験となりました。今年の秋にも収穫したお米でおにぎりを作って食べる予定です。今から楽しみです。

また、田植えをしよう！

昨年の春、砂場で水遊びをしていた4歳児の子どもたち。「なんか田んぼみたい」と田植え遊びが広がっていました。家庭の田植えを経験した子が稲の苗に似た草を探してきたり、家から本物の稲のような草を持ってきたりしました。

そんな子どもたちの姿を見ていた保育教諭の「本物の田植えをする？」という声掛けで園に作った田んぼで田植えをしました。秋にはお米が実り、みんなでおにぎりを作って食べました。

そして、今年の春、4歳児の時に経験したことを覚えていた5歳児の子どもたちが、家庭で田植えが始まった頃、「また、田植えをしよう」と、園に作った田んぼに稲を植えました。

シャボン玉遊びがしたい！

テラスで、異年齢の子どもたちがシャボン玉を吹いて遊び姿が見られます。2歳児がストローを上手に吹いてシャボン玉遊びをしていると、「私もしたい」と1歳児が寄ってきます。ストローを吹くことが少し難しかった1歳児ですが、近くの保育教諭が見守りながらそっと手助けをすることで、たくさんシャボン玉が空に向かって飛んでいきました。

まだ自分だけではできないことも大きいお姉さんお兄さんがしていることを真似たり、保育教諭にちよっと手助けしてもらったりすることにより、自分でできた達成感を味わうことができました。

このように仲南こども園では、様々な遊びを通して異年齢の子どもたちが一緒に遊ぶ姿が多くあります。年下の子に優しくしたり年上の子にあげがれ、の気持ちをもったり、異年齢交流を通して優しく思いやりを育んでいます。



シャボン玉見つけた



みんなでシャボン玉遊び

令和7年度、仲南こども園は開園10周年を迎えます。この10年の間、たくさんのお子とたちや保護者、職員、地域の方々が仲南こども園に携わってくださいました。その思いをしながら「子どもたちとともに毎日をワクワクと思える園づくりをしていきたい」と思っています。



第36回 図書館司書から見た子どもたち

町立図書館や学校図書館には、図書館の専門知識を持ち、図書館の整備や運営、利用者をサポートをする図書館司書がいます。

今回は、町立図書館、学校図書館に勤務する2名の司書の「声」を聞きました。

本について

わたしは、小学校の図書室で働く学校司書という仕事をしています。

図書室で働いていてうれしいことは、児童が本を借りてくれることです。借りられた本は、図書室ではない場所でも読まれているでしょう。本はどこかに連れられて行って、今度は逆に、本を読む人をそこではないどこかに連れて行ってくれます。そんな本の時間を大切にしたいなと思っています。

もうひとつうれしいことは、児童が本を使って調べる学習をしてくれることです。本を使って調べるときには、まず知りたいことがあるはず。本を使って、その知りたいことにせまっていくなとき、ふしぎなことに、調べれば調べるほど、もっと知りたいことが出てきます。そんなふうに、自分が求めるものを探しながら進んでいくことは、人生に似ているとわたしは思っています。ぜひ本とじっくりその体験をしてほしいと思うのです。

図書室では、毎月、本と親しめるようなイベントもしています。昨年度の秋には、校長先生が「おすすめの本を教えてください」と児童に呼び掛けて、児童のおすすめの本のタイトルを図書室に貼り出しました。校長先生はその本を手にとって、児童に言葉をかけられていました。そこから発展して、冬には、児童のおすすめの本を、他の児童が読んでシールを貼る取り組みも行いました。シールが重なるぐらいたくさん貼られた本もありました。

図書室は、児童が本と出会う場所です。これから、たくさんの本の出会いがあるように取り組んでいます。



高篠小学校学校司書 小山 明子

本の持つ力

子どもの頃から本が好きで、本からたくさんのお話を学んできました。司書になりたい、図書館で働きたいと思ったのも、学生の頃に本から受けたイメージや本の本の持つ力を、少しでも多くの方に届けていきたいと思ったからです。

私が、まんのう町立図書館で司書として働き始めて9年になります。当初は、図書館も開館したばかりで、本も少なく、どうすれば子どもたちに本に興味を持ってもらえるのだろうと試行錯誤の毎日でした。その頃から図書館に来てくれた子どもたちも、今も図書館に通ってくれています。

当時のことを思い出すと、あの頃の小さかった子どもたちの姿が思い浮かびます。まだまだ小さくて話すことさえままならなかった子が、一人で本を借りることができるようになった姿や、小学校の図書館見学で友だちに本の貸し出しの仕方を教えている姿、中学校の制服に身を包んでいる姿……。どんどん大きくなって図書館とともに育っていく子どもたちの姿を見て、頼もしく思っています。

図書室にはたくさんの本があります。歴史や料理、スポーツなど、興味がある分野の本を一冊でもいいので手に取ってもらえれば、新しい世界が広がっていきます。お話を読めば、自分では経験できないようなことを、本の中で経験できます。「この主人公はこんな声でこんな顔かもしれないな」など想像力も育まれます。悲しい時には、本が励ましてくれることもあるかもしれません。また、将来になりたいことのきっかけになるかもしれません。



まんのう町立図書館司書 山下 尚子



こども園



中学校



5月17日(土) 高篠小学校・こども園
琴南小学校・こども園
18日(日) 長炭小学校・こども園
24日(土) 仲南小学校・こども園
25日(日) 四条小学校・こども園
26日(月) 満濃南小学校
31日(土) 満濃中学校
6月 3日(火) 満濃こども園



小学校



天候や運動場の状態に配慮しながら、各校・園ごとに日時、競技や演技の工夫をして実施しました。保護者や地域の方の声援を受け、子どもたちは心をつなぐことができました。

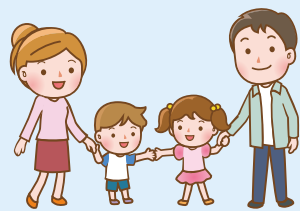
子どもの自立と親のこころ

夜、川沿いの国道から見上げると、家々の灯りを星かと見間違ふような、そんな山の上（他県です）で育ちました。小学校は一駅先、中学校は二駅先まで車で通わなければならず、山道を降りて駅まで行き、帰りは山道を登って帰る日々。随分と足腰が鍛えられたと思います。そのような地域ですので、高校となると、近くても車で1時間の距離です。そんな中、私が選択したのは、自宅からは通うのが難しい場所にある高校でした。学校に寮はなかったので、下宿屋に部屋を借りて遠い場所で親元を離れての生活となりました。

当時、娘を送り出す両親の気持ちはどうだったのでしょうか。他に下宿して高校に通う同級生がいなかったのも、思い切った決断をしたのだと思います。私にも高校生になった娘がいますが、自分なら果たして、子どもを笑顔で送り出すことができるだろうか…と考えます。いや、でも、子どもの「やってみたい」思いを思えば、心配でたまらなくてもやはり送り出すのでしょう。両親は、『自立』しようとする私を信頼して任せてくれたのだと思います。ずっと手の内でいてくれた方が安心です。だから、子どもを信頼して任せるということは、簡単なようでとても骨が折れることです。

子どもは日々成長していきます。子どもの成長とともに、親子の関係も変化します。小さいうちは、親が手を引いて先導する。そんな関係です。つまずきそうな石があれば、先回りして取り除いてやり、子どもは親を頼りに安心して歩きます。子どもが自立に向かい始めると、親の手はさほど必要とされなくなり、子どもの少し後ろを離れて歩くイメージです。子どもを隣に留め手をつかんでいれば、安心かもしれませんが、しかし、子どもには「あなたは自立できない」「任せられない」というメッセージが伝わります。子どもの自立が始まれば、心配でも、任せて手を離していく時期なのです。思春期以降、子どもの心身の成長のスピードは速く、急激な変化に親も戸惑います。混乱しますし、不安にもなります。自立しようとする子どもの手を離していくこと、それ自体も、さみしさや必要とされないものの悲しさ、時に虚しさをも伴う作業になります。そんな心の揺れと共に、たくましくなった我が子の姿を実感する。そのくり返しの先に、子どもの『自立』を心から喜べる日がやってくるのだと思います。

親の手を離さなかった小さな手は、夢をつかもうと大きく強くなっています。私も、両親がそうしてくれたように、自分の足で歩いていく娘の背中を見守っていこうと思います。自分を誇らしく思い、前を向いて歩いて欲しいと願いながら。



（満濃中学校区 スクールカウンセラー 熊谷 由紀）

ふわふわ～！



※写真と本文は無関係です

熊谷由紀さんは、香川県教育委員会からまんのう町に派遣された2名のスクールカウンセラーの一人です。もう一人の須崎仁美さんと二人で満濃中学校を拠点として小学校を3校ずつ担当し、相談活動を行っています。

英語の活動楽しい～!!

町内のこども園では、月に1回程度、小・中学校で英語の授業の補助をしているALT※が、外国語の活動を実施しています。

英会話やゲームをしたり一緒に遊んだりしながら、英語に親しんでいます。

※ALT (Assistant Language Teacher) :
外国語指導助手…学校で英語教育を補助する外国人教師



小・中学校
部会



テーマ「主体的・対話的で深い学び
～自己の考えを深める学び合いを通して～」
R7.5.8

昨年度までの研究をもとに、「学び合い」の在り方を研究していくことを確認しました。その後、学び合いが成立していない場面について話し合い、学び合うために必要なことを考えました。

第1回研究員会を開催

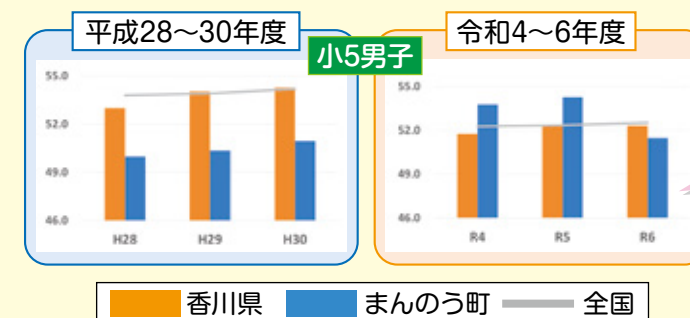
こども園
部会



テーマ「遊び心をもって生活を見直してみよう」
R7.6.12

今年度も、香川大学片岡元子教授に指導をいただきました。まず、昨年度の実践について振り返りました。その後、子どもたちが園生活をより楽しく主体的に取り組めるようにする方法を考え、共有しました。

コロナ禍前後の総合得点の推移



小5男子の町平均は
コロナ禍前より向上
している

訂正

前号（第49号）の「特集」のコーナー（P5）のグラフ（小5男子平成28～30年度）に誤りがありました。正しいグラフを掲載し、訂正します。



おも〜い!

仲南こども園

編集後記

1970年の大阪万博で紹介されたもので、現在の私たちの生活に欠かせないものとして、ワイヤレステレホン（携帯電話の原型）、電気自動車、電波時計、缶コーヒー、回転寿司、動く歩道などがあります。

現在開催されている大阪・関西万博では、未来の技術や社会システムを体験できる展示や、参加型のコンテンツを多数見たり体験したりできます。具体的には、空飛ぶクルマやEVバスなどの次世代モビリティ、人支援ロボット、カーボンニュートラル技術（温室効果ガスの排出を実質ゼロにする技術）、そして未来の都市を体験できるパビリオンなどがあります。これらの未来の技術や社会システムが、これからの私たちの生活をより豊かにしてくれることが楽しみです。

小説家司馬遼太郎さんが書かれた「21世紀に生きる君たちへ」。この文章は、小学6年生の国語の教科書のために書かれたものです。21世紀を生きる子どもたちに社会の一員として、一人の人間として成長するためのメッセージが書かれています。

司馬さんは、この文章の中で大切にしてほしいことを示しています。過去の出来事から学び、歴史を大切にすること。日本の文化や伝統を大切にすること。訓練し、自分に厳しくそして他人に優しく接することで、自立した頼もしい人間になれること。友だちを大切に、みんなで協力し合うこと。21世紀がどんな時代になるかは、未来を担う子どもたちの力にかかっていること。そして、最後に以下のように結んでいます。

以上のことは、いつの時代になっても、人間が生きていくうえで、欠かすことができない心がまえというものである。

君たち。君たちはつねに晴れ上がった空のように、たかだかとした心を持たねばならない。

同時に、すっきりとたくましい足どりで、大地をふみしめつつ歩かねばならない。私は、君たちの心の中の最も美しいものを見続けながら、以上のことを書いた。

書き終わって、君たちの未来が、真夏の太陽のようにかがやいているように感じた。

これからの未来を明るく輝くものにするのは子どもたちです。すばらしい技術も社会システムもそれを使い生かしていくのは人間です。子どもたち一人ひとりが輝かしい未来の担い手となるよう、私たち大人は子どもたちとともに考え、歩んでいかなければならないと感じています。

表紙絵：川瀧 梨音（満濃中学校美術部1年）

次号予告
(10月1日発行)

特集
園・学校ウォッチング

町民の学びを育む図書館ネットワーク

四条小学校・高篠こども園